

### 1 自己評価及び第三者評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2890700061		
法人名	株式会社ファイブシーズヘルスケア		
事業所名	まんてん堂グループホームすま飛松		
所在地	神戸市須磨区板宿町2-5-23		
自己評価作成日	平成27年5月13日	評価結果市町村受理日	平成27年10月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/28/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/28/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 コミュニティー・サポートセンター神戸
所在地	兵庫県神戸市東灘区住吉東町5-2-2 ビュータワー住吉館104
訪問調査日	平成27年6月26日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

これまで同様に近隣には商店街やスーパーがあり、喫茶店や買い物、散歩などに行かれ楽しめる場所への取り組みに努めている。ホーム内においても居心地良く過ごせる空間づくりに努めています。生活の主体は入居者様にあるという想いを全職員が共通認識としてもち、関わりや支援の方向性など考え、環境作りに努めています。オープン当初から共に暮らす、寄り添う支援への共通認識を職員間で共有し、きめこまやかなケアサービスや傾聴する姿勢を大事にしています。「地域に密着した介護サービスの運営方針」にもとずき地域に根ざした介護サービスを提供し、「笑顔で安心と活気のある生活が継続できるようサポートします」を掲げ、取り組んでいく。職員は理念を理解し、理念に基づき行動しています。

理念の「ともに暮らす」「寄り添う介護」の実現に向け運営方針を作成し、美化・給食・意欲向上・行事・地域交流の5部会を中心に計画、実行、点検、改善のPDCAサイクルを回す体制ができています。また、職員間で何でも言える雰囲気を作られつつあり、職員が考案した「外出表」は、誰が、いつ、どこに出かけたかがひと目で分かり、きめ細かい外出支援に役立っている。「こども110番」など地域活動に協力しており、また自治会・近隣住民や自治体からも色々な情報が入り、連携も深くなってきている。小学校児童との毎月の交流や家族ボランティアによる動物や季節の草花の紙細工教室は、入居者の生活に「いろどり」を添えている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームすま飛松

評価機関:コミュニティサポートセンター神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念を実践し、すま飛松として「共に暮らす」「寄り添う」支援を共有している。運営推進会議において、「地域に密着した介護サービスの運営方針」を作成段階である。	法人及び事業所の理念を踏まえ「地域に密着した介護サービスの運営方針」を作成し、6月20日の運営推進会議の了承を得て決定した。その議事録は入所者家族を含む関係者に送付した。職員にはミーティングで周知したが、さらに内部研修によって共有化を徹底する。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	管理者は自治会に参加している。運営推進会議を開催して自治会長や地域住民の方に参加して頂き交流の機会を持っている。板宿児童館の子供さんとの交流の機会も設けている。	自治会に加入し、「こども110番、青少年を守る店、守る家」にも登録している。近所の妙法寺川の桜祭りで花見を楽しんだり、5月の子供神輿を見学した。板宿児童園と毎月共同の誕生会を行い、児童達が作った折り紙、貼り絵などを飾り付け楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会への参加、運営推進会議を通してアプローチしている。こども見守りステッカー等への協力を検討している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの内容、取り組み等を報告している。助言を頂きサービスの向上、地域の必要な情報にて生活が豊かになるように努めている。	2か月に1回開催し、入居者・家族・住民等から意見や情報をもらい有効に活用している。4月は、「運営方針(案)」を審議し、皆の意見を踏まえて6月に決定し、家族等関係者にも報告した。4月に場所を自治会館から事業所に変更し、事業所見学等ができるようにした。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の際のみに関わらず、随時訪問をして情報共有を行っている。	運営推進会議メンバーの地域包括支援センターから行政関係の情報を得ている。身元保証が必要な場合等は、連携をとって対応している。困難事例、事故等が発生した時は、直ちに市に報告し、場合によってはその対応について意見を求めることがある。	

自己評価および第三者評価結果

まんでん堂グループホームすま飛松

評価機関：コミュニティサポートセンター神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人としての姿勢として、身体拘束や不適切なケアをしないよう研修や勉強会を通して全職員共通認識出来ている。	マニュアルを用いて入社時及び定期の内部研修を行い、身体拘束のないケア実現に向け共通認識ができるよう努めている。本社からの事例報告も直ちに周知するなどして、職員が正しい認識を持つ様、“自己覚知”を促している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に研修や勉強会を行っている。	入社時及び定期の内部研修において、マニュアル等により虐待のないケア、尊厳重視のケアを学んでいる。虐待が疑われる事例があるときは、直ちに市に報告する仕組みがある。職員のストレス軽減策としてできるだけ複数の職員でケアに当たるなど試行している。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	前年度は外部研修『後見人制度』に参加した職員が勉強会を用いて全職員に後見人制度について発信したが今年度はまだ出来ていない。	成年後見制度の利用の相談がある場合は、地域包括支援センターに対応を依頼している。管理者は権利擁護に関する外部研修を受け、その内容を伝える職員研修を実施している。また、運営推進会議においても、入所者家族及び地域住民の方々にも啓蒙を行っている。	頼れる家族がいなくて将来が心配という高齢者が増え、成年後見制度の必要性が増しています。運営推進会議メンバー等を対象に、神戸市後見支援センター等に勉強会をお願いしてはいかげでしょうか。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	出来るだけ丁寧にわかりやすく説明するよう心がけ取り組んでいる。ご質問やご意見には真摯に受け止め、ご理解、ご納得いただいてからの契約とさせていただきます。契約締結時、および改定時には口頭または文書にて説明し、原則として契約書等を全て読み上げている。	十分時間をとって「重要事項説明書」から順に説明している。特に、敷金、家賃など金銭負担を伴うものは納得が得られるまで説明する。重度化した場合の対応については、事業所としてできること、できないことを明確にし、納得の上で同意書に署名いただいている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の際に意見を頂いたり、来訪時に積極的に管理者、計画作成のみならず全職員が家族様とお話をする機会を設けるように心がけている。	家族が来所されたときは、どの職員も親しく話しかけ、意見、要望等を汲み取れるような応接に努めている。家族の意見、要望はミーティングで話し合い、反映させるようにしている。災害、火災等の緊急時における近隣住民との連携の必要性を指摘いただき、その対策を検討中である。	

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームすま飛松

評価機関:コミュニティサポートセンター神戸

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(10) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員の意見を聴く機会を設けている。	運営に関する職員の意見の反映 管理者は常勤職員と月一回面談を行い、目標の遂行状況をヒアリングするとともに、意見等を吸い上げ運営に生かしている。また、常勤職員各2人で構成する美化・意欲向上・行事・地域交流・危機管理の5部会を設けて、自ら提案し実施する自主的な運営を図っている。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	チューター制度にて未経験者への指導を実施し、また職員の得意とすることを踏まえ、勤務に予定を組み入れてたり目標をもって働く事、責任感を養う環境づくりや役割分担に努めている。		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外問わず、意欲的に参加している。特に認知症実践者研修への受講については、年次計画にて受講者を決めている。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会又は須磨区リーダー会に職員、管理者が参加し同業者との関係性の構築に取り組んでいる。法人内での事業所交流会を実施している		

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームすま飛松

評価機関：コミュニティサポートセンター神戸

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	顔馴染みの関係が出来る様に取り組んでいる。困っていることを聞き出せるような支援に努めている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様との協力が必要なため、家族様の生活環境を配慮し、様々なツールを活用し話しやすい環境を作る様に関係性の構築に取り組んでいる。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要とされているサービスを見極め、他のサービス利用の検討も行っている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に暮らす、寄り添う支援を基本として、関係の構築を築いている。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	訪問頂いた時は職員から近況報告を行なっている。2、3ヶ月ごとに居室担当者より手書きのお手紙を送っている。		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場をつくるように支援したり、かかりつけ医を受診されるお手伝いをするなど、支援に努めている。	家族との情報交換や入居者本人との会話、特に入浴時、から、馴染みの人や場所を把握し大切にしている。入居者の馴染みの銭湯、理容所、喫茶店などへ出掛けることもある。定期的に面会に来る家族と仲良くなった他の入居者が一緒に会話したり、折り紙ができるよう支援することもある。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を理解した上で支援し、必要に応じて職員が間に入っている。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じての対応を心がけている。		

自己評価および第三者評価結果

まんでん堂グループホームすま飛松

評価機関：コミュニティサポートセンター神戸

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	(12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員全員が想いや意向を把握するようにしている。困難な場合は、家族様よりこれまでの生活歴などを伺い、把握に努めている。	契約時にアセスメントを出来るだけ詳細に行っている。暮らしの中で意思確認する場合は、言葉や表情からだけでなく、質問の仕方、選択肢を写真で示す等、応えやすいようにしている。家族から本人の昔を聴き、本人の行動パターンがやっと判ったことがあった。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活環境をインテークし、これまでの生活が継続できるような支援計画を作成するように努めている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の把握、情報の共有を行なっている。カンファレンスで支援内容について振り返り協議している。日々においては申し送りにて情報を素早く発信するようにしている。		
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の事を理解した上で話し合いを行なっている。それらを計画に反映させている。	チームで作る介護計画とモニタリング 介護計画には複数の具体的なサービス項目を掲げ、そこからさらにターゲットを絞って「ケアプラン抜粋表」を作っている。毎月実施状況をモニタリングし、カンファレンスを行い、新たな課題の抽出を行う。必要に応じて計画を見直し、家族に説明して同意を得ている。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、申し送りノートにより、職員間の情報共有を行っている、新たにケアプランからの抜粋(3項目)を日々実践し記録している。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	カンファレンス、サービス担当者会議を行い、ニーズを話し合っている。個別のサービスに取り組んでいる。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のふれあい喫茶など、定期的な交流に取り組み始めている。		

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームすま飛松

評価機関：コミュニティサポートセンター神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との関わり、連携を大事にしている。相談でき助言を頂いている。	内科や歯科、眼科等の受診の付添は、原則家族等が行っているが、中には月2回定期的に事業所に往診しているかかりつけ医もいる。提携医療機関医師に往診、連絡してもらえるよう日頃から情報交換を行い、協力関係を築いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護においても利用者の変化が見られる際は連絡し指示を受けている。状態に応じて往診して頂いている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医師や看護師、家族様との情報の共有を行っている。	利用者が入院した際には、本人の普段の生活状況やその特徴などを詳しく知らせている。今年1月に入院したケースでは、家族や医療関係者と約4回の情報交換を行い、容態を確認し、三者一体となって退院計画を話し合い、1か月後に退院できた。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの方針は契約時に説明させていただいている。その状況になった時は医療関係者、家族様と密に連絡をとり、対応を行っている。	契約時に「重度化した場合の対応に係る指針」を書面で説明し、同意書に署名捺印していただいている。医療機関、家族、事業所の三者で話し合い、本人、家族の意向を確認し、事業所として出来ることを説明している。またそのための体制を整え、状況変化に対応できるようしている。	事業所の力量や体制が重度化や終末期を支えていけるかを見極めるためにも、昨年の暮れにあった看取りを実例として、記憶が薄れないうちに全職員を対象にした振り返り研修を行うことを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に行っていない。今後の実施課題でもある。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定を含む訓練を消防署立ち合いで年2回行っている。今後は全職員が身につけられるよう訓練、指導の改善を行っている。	近隣住民、家族の参加はないが、年2回独自に消防署の立会いの下で消防訓練を実施している。運営推進会議に参加している家族から協力したいので事前に日時を知らせてほしいとの話があり検討している。	自然災害にも備える必要があります。兵庫県の防災士会主催研修には、阪神大震災の実例等、地域、家族の関心を深める身近な例を話題とするものもあります。住民とともに「自主防災組織」を作り講師を招くことなども検討してはいかがでしょうか。

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームすま飛松

評価機関:コミュニティサポートセンター神戸

自己 者 第	三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	慣れ合いにならない様に節度を持った対応に重点をおいて対応している。	接遇マナー研修を重要課題として年間研修計画に組み込んでいる。月1回の職員との面談では必ず話題に取り上げ、誇りやプライバシーを損ねる言葉かけをしないように徹底している。法人の内部監査室で課題になったことは必ず事業所の全体会議にあげ全職員に徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どのようにしたいか伺い自己決定ができるような、選択肢を設け提案している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自己決定できるようにアプローチに努め、要望があった際は可能な限り対応するように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服選びを共に行い、整容においても本人様の思いに寄り添うように配慮している。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月3回の食事レクリエーション時は、お好みの献立を参考にメニューを決めている。準備、片付けなど役割を分担し、お手伝い頂けることを一緒に行っている。	月に3回の食事レクリエーションでは日頃のメニューに無い献立を皆で考え、利用者と職員が共同で朝食、昼食、夕食の食材の買出しに出かけ、一日3度の料理作りを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は記録を行い把握している。水分は不足しがちなため形態をゼリーなどにして提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施している。週一回個人契約ではあるが歯科衛生士の往診を受けている。		

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームすま飛松

評価機関：コミュニティサポートセンター神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の状態に合わせ、おむつやパッドの大きさなどを変える工夫している。排便の間隔を把握し、出来るだけ自然排便が出来るよう支援を行っている。	少しでも機能を回復できればと、排泄一覧表でチェックしながらトイレ誘導を行っている。利用者のそばに寄り添ってさりげない自然体の声掛けで介助を行っている。昼間は入居者の多くはリハビリパンツを、夜間はオムツを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	かかりつけ医や訪問看護と連携し排便コントロールしている。整腸作用のある乳製品等を提供している。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本は2~3日に1回は実施。本人の体調、要望に合わせて実施している。	利用者が希望する時間帯に入浴ができるよう事前に意思を確認して、声掛けのタイミングを図って対応している。入居者同士と一緒に入浴することもある。入浴中は口数が多くなるので、昔の事を聞けたり、どこに出かけたいのか希望も聞いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間、起床時間など、個々の生活状況やニーズに合わせて安眠につながるような支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の内容、服用について調剤薬局と相談し理解した上でダブル確認を行い、服薬ミス、漏れがないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の満足度を念頭におきながら支援している。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望時は個々に対応出来る様に月単位の外出表を作成し一目で状況を把握し、外出支援に努めている。地域行事へも率先して行い地域の方々の協力を得られるように支援をしている。	希望者と近所の喫茶店によく出かけている。少し遠方の須磨公園やナナファームに車で出かけ、散歩したり、買い物をしている。今年、近隣の須磨学園から文化祭のお誘いがありぜひ皆で参加したい。1か月間の「外出表」を作り誰が何処に出かけたか一目で判るようにしている。	「外出表」で外出状況をウォッチするのは良い工夫ですので、さらに見やすく見直し、極端に外出が少ない方にはどう対応したかなどの記録も残すようにしたら如何でしょうか。

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームすま飛松

評価機関：コミュニティサポートセンター神戸

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要な物品は家族様に相談し、了承を得てから購入している。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	申し出があった場合には事務所の電話を利用して頂いている、お手紙についてもご希望により支援している。		
52 (23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	限られたスペースの中で、季節感を味わってもらえるような置物、季節のお花などを飾るように工夫をしている。	紙細工がじょうずな家族と一緒に作った紫陽花や動物等が戸棚に飾ってあった。また外出時に撮った写真、母の日の写真、父の日に贈られたネクタイを結んだ5人の男性の顔写真、児童館の小学生との笑顔の写真等が壁面をにぎわしていた。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士で声をかけあったりお互いの居室へ行き来されたりしている。また、一階へ降り玄関先のベンチなどを活用し、心が落ち着ける空間、居場所を工夫している。		
54 (24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの想いの品、御写真、家具、衣類などはご家族に持ってきて頂いたり以前の暮らしを残している。	居室への私物の持ち込みは特に制限を設けていない。テレビやぬいぐるみがあり、妻子や結婚式の甥の写真などが飾り棚に所狭しと貼ってある部屋もある。昔、外国で描いてもらった自画像を飾っている入居者からは懐かしそうに一言説明があり、他にも思い出深い品々であふれていた。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できる事は自身でして頂いている。過剰な介護は行わない様に支援している。		